

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：スポーツ振興対策費

事業名 パラリンピックを目指すアスリート強化支援事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

清流の国推進部 競技スポーツ課 障がい者スポーツ係

電話番号：058-272-1111 (内 2944)

E-mail：c11173@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 20,668千円 (前年度予算額：17,340千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄 附 金	そ の 他	県 債	一 般 財 源
前年度	17,340	0	0	0	0	0	0	0	17,340
要求額	20,668	0	0	0	0	0	0	0	20,668
決定額	20,668	0	0	0	0	0	0	0	20,668

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

東京2020パラリンピック及び北京2022冬季パラリンピックへの出場が有力視される選手を指定し強化を実施する。

併せて、障がい者アスリート強化委員会の実施により、岐阜県における障がい者アスリートの競技力向上の方向性を検討する。

(2) 事業内容

県ゆかりの選手の強化指定 (トップ選手の強化)

東京2020パラリンピック及び北京2022冬季パラリンピックへの出場が期待される県ゆかりの選手を指定し、競技活動の支援を実施する。また、東京2020パラリンピック及び北京2022冬季パラリンピックへ出場する強化指定選手の激励、祝勝対応を実施する。

(3) 県負担・補助率の考え方

県 10/10

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	53	選手選考委員会委員報償費
旅費	2,920	大会戦力分析調査費、東京パラ等選手激励・競技観戦旅費等
需用費	211	東京パラ・北京パラ出場選手激励品・祝勝品、強化指定証等
役務費	43	選考委員、強化指定選手との連絡調整
委託料	2,200	東京パラメダル獲得選手への懸垂幕
使用料	441	東京パラ・北京パラチケット代、強化委員会に係る会場借上げ等
交付金	14,800	強化指定交付金（個人）
合計	20,668	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

清流の国ぎふスポーツ推進計画において、東京パラリンピックで10名の県ゆかりの選手輩出を目標に掲げ、選手強化を実施する旨記載している。

(2) 国・他県の状況

国が示す、第2期「スポーツ基本計画（平成29年3月策定）」では、パラリンピック競技大会の金メダル獲得ランキングについては、17位以上という目標が設定されている。

また、公益財団法人日本障がい者スポーツ協会が示す、「日本の障がい者スポーツの将来像（ビジョン）（平成25年3月発行）」では、東京2020パラリンピックでの国別金メダルランキング世界トップ7という目標が設定されている。

事業評価調書

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

(事業目標)

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
東京 2020 パラリンピックで 10 名の選手輩出等を目標に有力選手の強化を実施する。

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業 開始前	指標の推移		現在値 (前々年度末時点)	目 標	達成率
夏季パラリンピック 出場者数	1 名 (H12)	1 名 (H20)	3 名 (H24)	1 名 (H28)	10 名 (R3)	10%
	(H)	(H)	(H)	(H)	(H)	%

○指標を設定することができない場合の理由

--

(前年度の取組)

・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）
個人選手を強化指定し、大会出場、日常練習、コンディショニング調整等に対する支援を実施。

(前年度の成果)

・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果
強化指定選手がそれぞれ力をつけ、日本記録の更新、世界選手権での上位入賞、日本代表選手への選抜など、支援の成果が現れてきている。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い △：必要性が低い 	
(評価) ○	東京 2020 パラリンピック開催を契機に、障がい者スポーツに対する関心が高まっており、パラリンピックを目指す選手を支援、強化していく必要がある。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおり又はそれ以上の効果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない 	
(評価) ○	パラリンピックを目指す有力選手を、中央競技団体等からの情報により強化指定することで、ダイレクトな選手強化につながっている。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている △：向上の余地がある 	
(評価) ○	強化指定選手がそれぞれ力をつけ、日本記録の更新、世界選手権での上位入賞、日本代表選手への選抜など、支援の成果が現れてきている。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業が直面する課題や改善が必要な事項 東京 2020 パラリンピック開催を契機に、県内での障がい者スポーツに対する関心が高まっており、この機を捉えて競技力向上のための支援を積極的に行っていく必要がある。
--

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 障がい者スポーツの競技力向上に関する取組みは、平成 27 年度から始まったばかりであり、これまでの成果を更に発展させていくため、今後も継続して支援していく必要がある。
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	—
組み合わせて実施する理由や期待する効果 など	—